

2021年5月27日

各位

株式会社 紀陽銀行

**「串本古民家・まちづくりプロジェクト」第2弾となる  
「NIPPONIA HOTEL 串本 熊野海道」3棟目オープンについて**

株式会社紀陽銀行（頭取：松岡 靖之）が支援する「串本古民家・まちづくりプロジェクト」の第2弾として、串本町の歴史的資源である古民家「植松邸」を宿泊施設およびランドリーにリノベーションした「NIPPONIA HOTEL 串本 熊野海道」3棟目がオープンしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、本プロジェクトの実施に際して、事業主体である株式会社一樹の蔭（代表：松岡 庸一郎）に対し、株式会社日本政策金融公庫和歌山支店中小企業事業（以下「日本政策金融公庫」）と協調融資をおこないました。今回の協調融資は、コロナ禍を乗り切るため、日本政策金融公庫は「新型コロナ対策資本性劣後ローン」、当行としては初となる「資本性ローン」を活用し、資本性資金の導入による財務体質の改善を図りつつ長期安定資金への対応をおこなったもので、本スキームは県内初の取り組みとなります。

紀陽銀行は、引き続き観光振興などを通じて、地元地域の活性化に貢献してまいります。

## 記

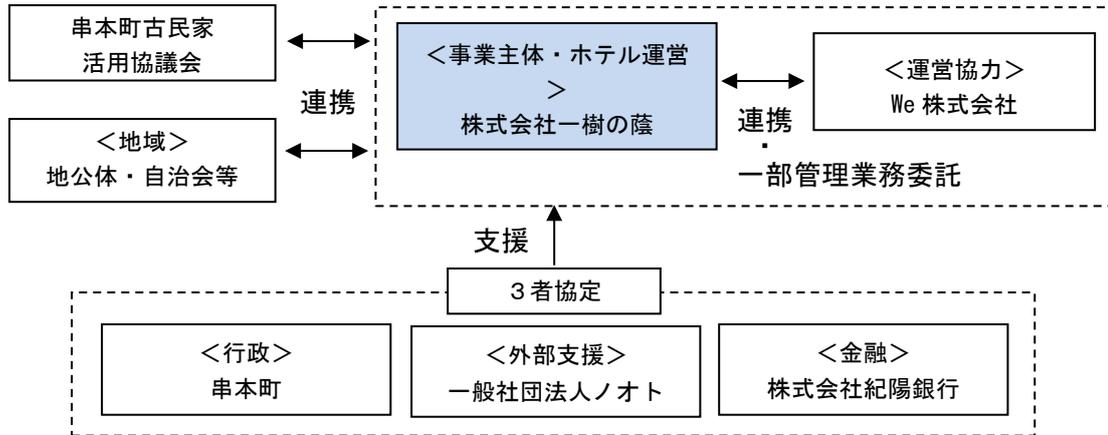
## 1. 「NIPPONIA HOTEL 串本 熊野海道」3棟目について

所在地	和歌山県東牟婁郡串本町串本970番地
施設内容	宿泊施設（客室2室・キャビン4室）、宿泊附随施設（ランドリー）
開業日	2021年4月27日（火）
対象物件	古民家（植松邸）1棟

## 2. 「串本古民家・まちづくりプロジェクト」について

本プロジェクトは、今後3年間を目処に「稲村亭」\*が位置する串本町の中心部にある古民家などを活用し、宿泊棟・飲食施設などの整備を進める計画です。当行は、2017年9月に串本町および一般社団法人ノオトと締結した「和歌山県串本町の歴史的資源を活用した地域活性化に向けた包括連携協定」に基づき、「串本古民家・まちづくりプロジェクト」の事業主体である「株式会社一樹の蔭」に対して資金面の対応などプロジェクト全体への包括的な支援をおこなっています。今後も串本町の地域活性化を図るため、本プロジェクトへの積極的な支援を継続してまいります。

【支援体制】



※「稲村亭」とは

本プロジェクト第1弾としてリノベーションした古民家の1つであり、本プロジェクトの中核施設。明治初期に串本に住んでいた資産家・神田直堯氏が建てた邸宅（棟上げ1874年、築約150年）で、海岸に漂着した1本のスギの大木から奥座敷2間（8畳と10畳）の柱や壁、障子の棧や小型の家具までを造り、直堯氏はこの奥座敷で隠居生活を楽しんだとされる。なお、スギの流木は、その昔大飢饉のとき、米を無償で提供してくれたお礼として地元の漁師が贈ったもの。

<「NIPPONIA HOTEL 串本 熊野海道」植松邸（客室2室・キャビン4室・ランドリー）>

【植松邸外観】



【植松邸エントランス】



【植松邸の客室】



【植松邸内ランドリー】



## 【ご参考】

### 1. 串本町について

本州最南端のまち串本町は、ラムサール条約に登録された海や歴史的資源があるほか、柑橘類や水産物など、地域資源が豊かなまちです。本プロジェクトへの支援により、串本町の豊富な地域資源の有効活用につながるとともに、串本町がめざす「観光振興による地域経済活性化」促進の効果も期待されます。

### 2. 「植松邸」について

本プロジェクト第1弾（稲村亭のリノベーション）にご賛同いただいた植松家18代目当主より旧家の利活用にご協力いただきました。植松家は先祖に石田三成の叔父（石田五治兵衛）などがある地元の名家です。植松邸は築109年の旧家で、近年ではうどん屋やはきもの屋として利用されており、情緒溢れる街並みにマッチした古民家です。

### 3. 「株式会社一樹の蔭」について

株式会社一樹の蔭は串本町の歴史的資源を活用したまちづくりに関して、資金調達やリノベーション、維持、管理および運営をおこなう会社として設立されました。

商号	株式会社一樹の蔭
設立	2017年11月22日
所在地	和歌山県東牟婁郡串本町串本879番地1
代表者	松岡 庸一郎
資本金	150万円
事業内容等	串本町の歴史的資源を活用したまちづくりに関して、資金調達やリノベーション、維持、管理および運営を実施

以上

本取り組みは、SDGs（持続可能な開発目標）のゴール8「働きがいも経済成長も」、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」につながる取り組みです。

